



学校だより

# やまゆり



2026 年 6 月号  
令和 8 年 5 月 29 日

横浜市立大口台小学校

神奈川区大口仲町 460

学校からのお知らせを学校HPや「すぐる」で日々発信しています(担当:副校長) <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/oguchidai/>

## 「わたし」に届くメッセージを

校長 横尾 健之

毎朝、校門（通称青門）から昇降口の途中にある体育館入り口付近に立って、子ども達を迎えるのが私の日課です。本来は8時5分に開門ですが、それより少しだけ早く登校してくる子ども達を敷地内に待機させています。ですから、体育館入り口から校門までは列ができます。私は、先頭の子どもの急かされて、腕時計の8時5分を確認すると、入校の合図を出します。

その瞬間、私の反対方向から昇降口に向かって、子ども達が一斉に進んできます。私は、みんなに聞こえるように「おはようございます」と声を張り上げて言うのですが、不思議です。ほとんど、あいさつは返ってきません。寂しい気持ちになりながら、校門に立ち尽くす日が続きしました。

私は、廊下でもあいさつをします。特別教室の授業で移動する子ども、休み時間に校庭に向かう子ども、体の不調で保健室に向かう子ども、どの子どもにもすれ違う時に、「こんにちは」と挨拶します。すると、ほぼ100%、挨拶が返ってきます。笑顔で挨拶が返ってきます。

登校時には返ってこない挨拶が、廊下では返ってくる。しばらくの間、校門に立ちながら、この謎について考え続けました。この校門と廊下の状況の違いを分析して、私なりに結論が出たので、朝の校門で実践してみました。

8時5分、一斉に入ってくる子どもに腰をかがめて、一瞬ではありますが、一人一人の目を見ながら挨拶をしました。するとどうでしょう。子ども一人ひとりから挨拶が返ってきました。私は心が軽快になり、次々この挨拶を繰り返しました。一人ひとりからたくさんの挨拶を受けると、こんなにも幸せな気持ちになるものかと感無量になりました。

さて、「みんな」と「あなた」では、こんなにも違うもの。挨拶は「みんな」に送るメッセージだと伝わらない。だけど、「あなた」に送るメッセージだと伝わる。これは、受け取る側にとって、「わたし」への挨拶となるからではないでしょうか。きっと「わたし」だから心に届くのです。「わたし」メッセージとして受け取ってもらうには、相手の目を見ることです。

「相手の目を見て話をしましょう。聞きましょう。」とはよく言われることですが、これを実現するのが、なかなか難しい場合があります。全体を目の前に話をするとき。視線が一点に集中してしまいがちです。また、二人を目の前に話すとき。片方の子どもが多くを話していると、その子どもばかりに目を向けてしまうもの。隣でもう片方の子どもが、こちらにずっと視線を送っているにもかかわらずです。

挨拶だけでなく、子どもに向けたメッセージが、「わたし」に届くメッセージとなるように全職員で子ども一人一人の目を見て、あなたが大切なんだというメッセージを送り続けていきます。もっと、もっと笑顔あふれる学校にするために。

皆様の「わたし」メッセージのご理解・ご協力をこれからもよろしくお願いいたします。